

## 「中国地域産学官連携功労者表彰」受賞者紹介

### コーポレーションパールスターの新宅専務がTBS「夢の扉」に出演されました！ (TV 番組放映日：H23.2.6(日)18:30～19:00)

広島大学の浦邊教授とともに、「転倒予防くつ下、外反母趾対策くつ下の開発」により、第4回中国地域産学官連携功労者表彰を受賞(平成22年5月26日プレスリリース)された、(株)コーポレーションパールスターの新宅専務が、TBS「夢の扉」というTV番組に出演され、これまでの開発の秘話や、現在開発中／開発予定の製品等について紹介されました。



(受賞式当日の様子)

(※)受賞事例の詳細につきましては、[事例概要](#)をご参照下さい。

番組を拝見したコラボレーションセンターから、その内容を簡単にご紹介させていただきます。

## 開発の経緯

(株)コーポレーションパールスターは、大正4年に軍の下請としてスタートし、新宅専務は3代目。医療用くつ下を開発するようになったのは、9年前、工場を訪ねてきた女性から「足を暖めてくれるくつ下を作って欲しい」と依頼されたことがきっかけだったそうです。新宅専務は、新幹線の窓がとても冷たい(普通のガラスよりも、すりガラスの方が暖かい)ことにヒントを得て、くつ下に凹凸(空気の層)を設ければよいのでは？というアイデアを思い付き、経済産業省の補助金を利用して開発を進め、1年で完成。しかし、くつ下は全く売れず、2004年には倒産寸前まで追い込まれました。

そんな中、知り合いの義肢装具士から「転倒事故をくつ下で解決できないものか」と提案を受け、広島大学の協力を得て、つま先を持ち上げることによって段差でつまずくことを防止するくつ下の開発を進め、2007年に完成。その後も入院生活での着用テスト等を通して改良を重ね、今では、ひと月に1万足以上売れる入手困難な大ヒット商品に育て上げられました。その間、常に順風満帆というわけにはいかなかったようですが、新宅専務は、「絶対にあきらめない。できないと思ったらそこで終わりだ。」と自分を叱咤激励し、医療用くつ下の開発を続けてこられたそうです。

## 現在開発中／開発予定の製品

現在、新宅専務は、県立広島大学(保健学科)の井上誠先生と共同で、『ストレス対策くつ下』の開発に取り組んでおられます。

このくつ下は、「転倒予防くつ下」を薄くしたもので、構造・材質的には全く同じだそうです。足の蹴り出しが強くなることで血行が促進され、ストレスが軽減されるのでは...と期待されています。竹原病院の看護師さんの協力を得て実証試験を行ったところ、18名中13名の看護師さんからストレス軽減が確認されたとのことで、今後も共同で研究を進めていきたいとおっしゃっておられました。

## My Goal

新宅専務の“My Goal”は、「2015年までに、転倒事故をゼロにすること。」「ものづくり」と「経営」を両立させ、自分が開発したくつ下で健康に歩ける人を増やしていきたい！とおっしゃっておられました。今後は、足が麻痺した人の歩行をサポートするくつ下の開発にも取り組む予定だそうです。